



(投稿者)

平園賢一
宇都宮義文
福井 豊
畝 一雄
堀 良慶
和田孝明・幸子
木村悦雄・正子
田村和司
中柴雅彦
永津照見
野原 宏
小山美枝
中村 徹
鈴木忠男
上村真澄
井澤尚子



(順不同・敬称略)

あーと・わの会 (通称「わの会」)

60回放談会(ネット上)

日時 2020年 12月吉日

インターネット投稿

参加者 (計18名)



年末年始のご挨拶
白馬でコロナを追い払おう！



出品者 平園賢一さん

作家名	不明
作品名	彩色備前白馬香炉
材料・技法	備前焼 彩色
制作年	江戸中期
サイズ	15.5cmX22.2cm

コメント 彩色備前は色備前ともいい、江戸中期の正徳年間に当時の備前焼の不振脱却を狙い、藩の統制・監督下で御用達品である彩色備前を作り始めた。備前の御細工人が低温で素焼きの細工物を精巧につくり、焼成後に藩お抱えの狩野派の絵師が胡粉で地塗りをしたのち丁寧に色付けしたため、その特徴は巧妙精緻で木彫風であるとされる。この香炉も白馬節会（無病息災）にちなんだ神馬がモチーフとなっている縁起ものである。江戸中期の作品現存数は極めて少なく貴重だ。世の中ではマイナーな存在だが備前焼の不遇時代が生んだ異端児としての魅力は今も新鮮である。

出品者 宇都宮義文さん



作家名 不詳
作品名 爵 (古代中国での酒器の名称)
材料・技法 青銅。鑄造
市販品の工房製作と推定。
制作年 中国、清時代と推定
サイズ 高15.9 横12.3cm 重さ360g



コメント 古代中国の青銅器のうち、酒盃の 爵 を模した清朝期の市販品であろう。酒盃前面にトウテツ文様があり魔除けと、兜の形で併せて勇武の意味があるから、世界のコロナ菌退治退散を願い出品した。トウテツの文字が難し過ぎて私の機器に無い。あしからず。当品わ、母が我が家に嫁した時の持参品で、母が生前に分与してくれた。実は、武道達人で漢学者の母の祖父もこの 爵 の名前も使用方法も知らないで単にカラモノと珍重していたらしい。母わ香炉として使用したらしいし、キレイ好きなので青銅器特有の年代モノの風格を表す青錆びを磨き粉でキレイサッパリ磨き落として気分爽快になったとのことだが、其れを見た並みの骨董好きの父が落胆したらしい。しかし、日本人特有の美意識で器本来の使用法から離れて他の美術品として利用するのも構わない。茶道の品にその例を見ることが出来るでわないか。ところで、この品が 爵 であると判明したのわ、私が平成14年に新宿の某百貨店で、中国南京博物院所蔵 甦る南遷文物展で求めた図録でである。そこにわ 爵 として、清朝皇室における重要な祭祀や儀典にあたって、皇帝が献酒や飲酒に使用したのが 爵型酒盃であり、その源わ、殷、周時代の古代青銅器の 爵 の器型にさかのぼると解説されて居る。まさか、殷、周時代の代物でわあるまいし、清朝使用の伝来品とも思えないから、敢えて清朝時代の市販品として控え目に表現した次第。私わ、元来控え目な性分なのである。なお、母が遊びで書き散らした万葉歌人の、山部赤人の 富士の歌 脱字もあるが遊びだから一向に構わない の軸の前にこの品を置き、元旦に盃を挙げ、コロナ騒動で昨年から墓参にも行けなかったことを亡き母に詫びながら、皆の平穩無事を祈願したい。俗に新春初夢わ、一に富士山、二に鷹、三に茄子とあるから、富士の歌、これまた縁起もの。但し、三の茄子がよしとされるのかわ解らない。

毎度の余談ながら、誌上放談会ご担当の年始年末の休暇返上になるのでわないかと危惧する放談会えの取り組みに、会活動に貢献乏しい84才の老骨会員として感謝すること大である。

出品者 福井 豊さん

作家名	フランク・ブラングウィン (1867~1956)
作品名	Frank Brangwyn カプア門(ナポリ) Porta Capua, Naples
材料・技法	エッチング、 ドライポイント・紙
制作年	1924年
サイズ	15×14.5cm(版寸)



コメント 20年以上前、イーベイで英国の画商から小品には不似合いな大きな額装のまま入手した作品。戦前の英国ではこのような額装が普通であったようだ。額裏にロンドンの画廊シールが貼られている。同名の門はナポリに今もあるが形状も違いこの様な群衆のいる処ではない。100年も経つと跡形も無くなるのかそれともこの画家特有の想像力で人々の賑わいを演出させたのかは不明である。

作家略歴 1867年、英国人を両親にベルギー・ブルージュ生。1874年ロンドンに移住。1882~84年ウィリアム・モーリス工房で働く。1885年RA初出品。1886年以降、船員として働く。1890年RBA会員。1891年ロンドン初個展。パリ・サロン3等賞。1893年シカゴ万博金賞。1900年頃より銅版画開始。1904年RA準会員。1914年以降第一次大戦ポスター制作。1919年RA会員。1925年、英国議会上院壁画制作。1930年NYロックフェラーセンター壁画制作。1936年ブルージュに美術館開設。1941年ナイト称号。1952年RAで回顧展。1956年没、享年89歳。

出品者 畝 一雄さん



作家名	三浦 泉
作品名	街角
材料・技法	油彩
制作年	不明
サイズ	45.5cmX60.6cm (P12号)

コメント この風景は、金沢駅近くの陸橋で今では取り除かれている。松本竣介ファンや所蔵家に石を投げつけられることを覚悟して申し上げると、俊介の雰囲気を持っているのではないかと思う今日この頃です。現在この作家は心象風景から抽象の世界に移行しています。

なおキャンバスには薄いガーゼを組み入れてあると、画商が言っていた記憶あり。

作家略歴 三浦 泉 (みうら・いずみ/1958年～) 石川県生れ。1983年金沢美術工芸大学大学院修了。85年光風会展奨励賞、90年光風会会員。96年日展特選。昭和会展招待出品。安井賞展に出品。文化庁現代美術選抜展、96年安田火災美術財団奨励賞展(秀作賞)石川県現代美術展(美術文化大賞)等に出品。無所属。(出典 わコレ)洋画家

出品者 堀 良慶 さん

「お茶のひととき」

2020年11月28日に鈴木正道コレクションが寄贈されました。

この内、詩画集「お茶のひととき」の中にあつた鈴木大拙の「禅と日本文化」のエッセー詩と二見彰一の作品です。御覧下さい。

調和（harmony）の和は和悦（gentleness of spirit）の和とも読める。思うに、この意味の和こそ茶の湯の工程全体を支配する精神をさらによく表しているようだ。調和は形の方を意味するが、和悦は内的感情を示唆する。総じて茶室の雰囲気はむしろこの種の和を周囲につくりだすことである。-- 触感の和。香気の和、光線の和。音響の和を。まず茶碗を取りあげれば、手作りで歪んでいる。釉の掛けかたも一樣になっていないらしい。かく原始的ではあるが、このささやかな器は和・静・慎、特有の美を持っている。香をたいてもけっして強くなく刺激もせぬ、やわらかく漂いわたる。窓と襖も茶室も漂わたる和らぎの源である。室に許される光線はいつも柔らかくやすらかで、瞑想的な気分誘い込む。風は茶室をかばう老松の葉に通い、炉にたぎる鳴る窯の音と相和す。この環境のすべては、かようにして、それをつくりだした人の人格を反映するのである。

鈴木大拙 「禅と日本文化」



作家名	二見彰一
作品名	「お茶のひととき」
材料・技法	紙・銅版画
制作年	1994年
サイズ	10×8cm

コメント 作家の西洋への誘惑から生じた心の高まりは、作品上に詩情豊かなリリズムを吐露することになります。アクアティントの技法を駆使した二見特有の銅版画は、青を基調にしたロマンティックなイメージを生み出しており、見るものを幻想的な世界に誘います。西洋での作品が多い中で、この作品は日本文化への回帰、憧憬の様に感じます。

作家略歴 二見彰一（ふたみ・しょういち/1932年～）

大阪生れ。1967年春陽会研究賞を受賞。71～88年春陽会会員。73～2011年日本版画協会会員。ドイツ中心にヨーロッパで銅版画家として活躍する。

11年神奈川県立近代美術館で個展。13年静岡県立美術館で個展。（出典 わ眼）版画家

出品者 和田孝明・幸子さん



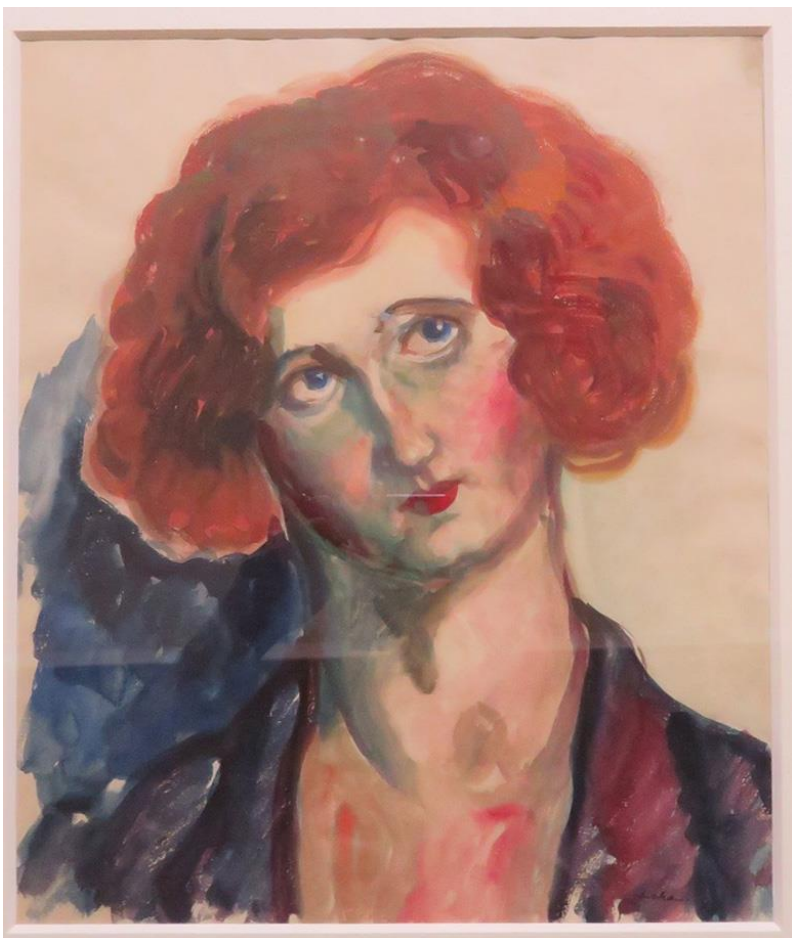
作家名	児島 虎次郎
作品名	「浜辺」
材料・技法	板にキャンバス貼り付け
制作年	不詳
サイズ	13×18cm

コメント 1908年まだ美術が人々に浸透していない時代に倉敷市の実業家、大原孫三郎が地元の画家、児島虎次郎をヨーロッパに留学させた。彼は画業の研鑽とともに孫三郎のために数々の名画を購入した。それらの作品を展示したのが大原美術館の始まりである。倉敷美観地区の一角にあり西洋美術・近代美術を展示する美術館としては、日本最初のものである。本作品は、小品であるが強烈な色彩と豪華な額により、迫力があり観る人を惹きつける。厚塗りの絵の具により立体感もあり、見応えのある作品となっている。そのほか板には、花の油彩画が描かれている。なお倉敷アイビースクエア内に、彼を顕彰し大原美術館別館として「児島虎次郎」記念館が開設されている。二人は生涯親交を持ち、深い信頼関係が築かれていた。

作家略歴 児島虎次郎（こじま・とらじろう/1881～1929年）岡山県生れ。1890年莊保二郎に絵を学ぶ。1900年山下久馬太よりデッサンの指導を受ける。01年上京。白馬会研究所に通う。02年東京美術学校西洋画科選科に入学し、成績優秀につき飛び級で3学年に進学。04年成績優秀につき4学年を飛び越して卒業。07年勸業博覧会で1等賞。08年渡仏、12年帰国。18年中国、朝鮮半島旅行。19年東京美術学校で初個展。渡欧。20年サロン・ド・ラ・ソシエテ・ナショナル正会員。大原コレクションの蒐集を始める。21年帰国。22年渡欧。23年帰国。26年聖徳太子奉賛美術展に出品。29年3月8日岡山県で没、享年47歳。（佐）洋画家、大原コレクション

出品者 木村悦雄・正子さん

作家名	長谷川路可
作品名	「ベルリンの女」
材料・技法	水彩
制作年	1924年
サイズ	30×24cm



「自画像 1920年代 鉛筆デッサン」)

「ベルリンの女 1924年 水彩」

コメント

作家にとっては100年来の、そして我々夫婦にとっても20年来の夢が叶うかも?!

「長谷川路可」の最初期滞欧時の水彩画及びデッサンコレクション10数点の中から、今回は水彩画「ベルリンの女・1924年作」(自画像は参考)の紹介である。1999年に京橋のギャラリーKで開催された「長谷川路可 水彩・デッサン展」で、将来機会が巡り縁の美術館に寄贈・収蔵が出来ればとの思いをこめて一括購入しておいた中の1点。それから20年が過ぎた今年になって、路可の故郷F市美術館で「長谷川路可

よみがえる若き日の姿」展が開催されたのを機に、我々が購入時に思い描いた夢の実現に向けて今話が進められつつある。長谷川路可が画家を目指して東京美術学校を卒業した同じ年の初めての渡欧から100年、その滞欧時にヨーロッパ各地で描きためた作品群の里帰りの実現でもある。

路可は渡欧後、大正・昭和にかけて国内外で日本画家・フレスコ画家として活躍する。カトリック美術家としてキリスト教黎明期のキリシタンを題材にした宗教画制作にも取り組み、日本のフレスコ・モザイク壁画のパイオニアとして旧国立競技場などの公共施設に多くの作品を制作する。

渡欧後様々に広く活躍することになる画家・路可出発点での基礎を築くための志こもるデッサン・水彩たちだと思っている。

これでまた一つ「100年単位で作品を後の時代に残したいと願う絵描きの夢」とその橋渡しが出来ればとの我々夫婦の夢の実現、更に現在進めているライフワーク・当面50点と定めての作品寄贈の目標が叶う。

作家略歴 **長谷川路可** (はせがわ・ろか/1897~1967年) 東京生れ。東京美術学校日本画科で松岡映丘に学び、1921~27年渡仏。油彩画とフレスコ画を習得。フレスコ画、モザイク画や日本画を描いた。武蔵野美術大学教授。日本美術家連盟理事。イタリアの修道院の壁画制作に携わり、ローマで没、69歳。洋画家、美教

出品者 田村和司さん



作家名	木村直道
作品名	梟
材料・技法	鉄、廃材 スクラプチュアー
制作年	不明
サイズ	縦37 × 横18 × 奥16cm

コメント 出会った時、その孤独な風情に購入をためらったが作家の思いを受け入れ入手した。

ご遺族の話ではスクラプチュアーを始めた初期の作品とのことで、そう聞くと何か初々しさを感じてしまうが本質は寂寥感のような気がする。

家の隣の林に夜になると時々梟が来てホーホーと鳴く。

どこか寂しそうである。

木村直道は自分の心情を梟に託したのか、その人生は生きるに苦しかったのか自ら命を絶ってしまう。

この作品を見ていると人間と梟の生について思いを巡らせてしまう。

私をこのように思わせるこの作品は私にとって名品である。

作家略歴 木村直道(きむら なおみち/1923~1972)

1942年 川端画学校で絵を学ぶ

52年 埼玉県美術展で入賞、光風会展出品

67年 アメリカ文化センター第1回スクラプチュアー個展

69年 第7画廊個展 71年 壺番館画廊個展

出品者 中柴雅彦さん

作家名	福岡通男
作品名	「ゆり」
材料・技法	テンペラ
制作年	2006年
サイズ	F6号 31.8×41.0cm



『ゆり』は、言わずと知れた『受胎告知』の作品の中で「純潔」の象徴として必ず描かれるモチーフであり、作品のタイトルに使用していることから、この作品は、『マリア』が神の子、イエス・キリストを身籠もったことを知らせる受胎告知を表していることがわかる。

中央に描かれているのが、マリアであり上部に描かれているのが『大天使ガブリエル』であろうか。大天使ガブリエルが「白百合」を持っている。この『受胎告知』をテーマした作品は、様々な巨匠が描いている。ダ・ヴィンチ然り、エル・グレコ然り、またムリーリョ然り・・・。

この福岡通男作品の『受胎告知』は、劇的というよりは、静謐な穏やかなひと時を感じさせる。とても現代的に描かれているため、「宗教絵画」的な教示（社会的モデル）画の要素は薄いですが、かえって何か日常的なゆったりとした場面に感じられるからこそ、個人所有として受け入れやすい面を持っているように思うのである。ただ、やはり福岡通男作品共通に見られるテンペラ画特有の繊細で優美なマチエールが作品に高貴さを与え、箔を打った細工は「宗教的工芸品」のようでもある。また配色も比較的伝統に則ったように感じられる。現在社会は、コロナ禍で世界中の世情が右往左往して疫病の苦しみに喘いでいる・・・にもかかわらず、人々は手を携える事なく、SNSでは、相手に気持ちを寄り添うことは無くに、己の主張に終始し、互いに非難の応酬を繰り返しているネット社会の中であって、私には何か“特別な意味と感情”を抱かせる作品である。

Xmas・・・私のアパートの部屋に掛けてある他の全ての絵を外して、受胎告知の祝祭は3月だが、『ゆり』だけを飾り、カッチーニの『アヴェ・マリア』を聴くことにしよう・・・。

作家略歴 福岡通男 1949年北九州市生まれ。1976年東京芸術大学油画科卒業。78年東京芸術大学大学院修了。

1989年セントラル美術館油絵大賞展大賞受賞。1992年～2000年現美展出品。個展(泰明画廊等)多数。

出品者 永津照見さん

作家名	小出三郎
作品名	「静物」
材料・技法	油彩、キャンバス
制作年	不明 1950年代か
サイズ	F6号 31.8×41.0cm



コメント

とある骨董屋で、実兄の小出卓二作で埋もれていた作品。
裏書きの三郎は消され、檜重作として売ろうとしたのだろうか？
サインはTak.にも見え、卓二作と読めなくはない。
しかし、量感や構造を的確に表現できるデッサン力。独特の構成方法。
油絵の具の透明色を生かした美しいマチエールは小出三郎そのものである。
背景は抽象的にも見え、果実が美しく幽玄に表現されている。

作家略歴 小出三郎（こいで・さぶろう/1908～1967年）大阪生れ。信濃橋洋画研究所で小出檜重、国枝金三、黒田重太郎に師事。1934年全関西展で全関西洋画協会賞。38年全関西洋画協会会員。独立美術協会賞。47年独立美術協会会員。汎美術家協会を結成。大阪で没、59歳。（出典 わ眼）洋画家

出品者 野原 宏さん



コメント 荒井龍男がブラジルのサンパウロで制作した抽象作品です。ニューヨークでジャクソンポロックなどの新鋭画家と交流して触発されて画いたものです。1954年頃日本の作家でドロッピングの技法を使った作品を残した作家はいるのでしょうか、ご教示お願い致します。

作家名	荒井龍男
作品名	昼の仮設
材料・技法	油彩等
制作年	1954年
サイズ	46×55cm

作家略歴 荒井龍男 (あらい・たつお/1904～1955年) 大分県生れ。1924年太平洋画会研究所。34～36年渡仏。ザッキンに学ぶ。37年自由美術家協会会員。50年モダンアート協会創立会員。NYリバーサイド美術館、サンパウロ近代美術館、ブリヂストン美術館で個展。55年没、51歳。(出典 わ眼) 洋画家

出品者 小山美枝さん



作家名	國田 敦子
作品名	題名不詳(花)
材料・技法	紙・色鉛筆
制作年	不詳
サイズ	32×23cm

コメント

國田敦子は花が好きで、庭にバラやカサブランカ、いろいろ育てていたという。この絵は色鉛筆画であるが、柔らかい感覚が好きだ。色鉛筆画は珍しいとのこと。今、うちにも花を飾っているが、花は柔らかく、優しい。こういう人間になれたらいいないつも思っている。

作家略歴 國田敦子（くにた・あつこ/1923～2003年）大阪生れ。1944年女子美術専門学校師範科西洋画部卒。田中一松に師事。45年中学校教師、米軍伊丹基地Pxで肖像画制作。58年米軍岩国基地で美術指導。自宅に絵画教室を開講。71、93年銀座・地球堂ギャラリー一
個展。82年山口県美展佳作賞。90、91年山口県創作文芸県知事賞。2003年没、80歳。
08、09年岩国市、周南市で回顧展。

出品者 中村徹さん



作家名	わたなべ ゆう
作品名	Small Collection No 307
材料・技法	板に油彩(紙、布、砂 etc)
制作年	2010年
サイズ	14×18cm

コメント 追悼 わたなべ ゆう
今年3月に亡くなられた。享年69歳。
1995年(平成6年度)「風土15」で第38回
安井賞を受賞したわたなべゆうは、受賞者
コメントで次のようにコメントした。

「(前略)私自身あらゆる素材、マティエール等に関心があるが、作品を見た人が、その作り方に最初に目がいく様では二流、三流の作品で、まず、その出会いの瞬間に魂が感動する作品でなければならない。(後略)」長文のコメントのため全文を紹介する余裕がないが、安井賞の受賞者の多くが受賞の喜びや感謝の言葉を述べることが多いコメントで、わたなべは絵画への自分のスタンスを堂々と述べている。本作品は、2011年山梨・甲府のアサヒギャラリーの個展を、特急電車を使用してトンボ返りで観に行ったら際購入した。別の意中の作品は既に赤丸がついていたことを思い出す。ある画家はわたなべ作品を工芸的と評したことがあるが、わたなべから送られた多くの資料等を使い、明治時代に始まった美術の定義にもさかのぼり、ゆうさんと私は気安く呼べないわたなべ作品を、今後味わい再考したい。

合掌

作家略歴 わたなべゆう (わたなべ・ゆう/1950年～2020年)

1950年 山梨県河口湖町生まれ。1986年 作品発表開始。1989年上野の森美術館大賞展 佳作賞受賞1991年 初個展 吉井画廊 1995年 第38回安井賞展 安井賞受賞 個展を中心に活動。2020年山口画廊(千葉) 2020年3月没。2020年6月山口画廊(千葉)個展

出品者 鈴木忠男さん



作家名	不明
作品名	「幾何学的小立体」 19個あり
材料・技法	クラフト色厚紙製
制作年	不明
サイズ	6～7cm程



コメント 2018年にブリキ星（西荻窪）の骨董市に6個あり1個は色がなかったので、それ以外を買った。1個3千円をおまけして買った、色紙を切って貼った教材なのか用途何なのか分からず。出所は、もしかしたら地元の清澄白河の骨董店「幾何」（3年目の今年店仕舞いした）ではないかと思い数日後に行くと、ありました、在庫を持ってきた所だという、60個仕入れたとのことで、やはり何なのか分からないとのこと。20個以上あり、色なし以外から14個選んだ、1個2千円。色付のクラフト紙を貼り合わせ、接着部が見えないように巧く作ってあり、同じ物はない。美術的作品とも趣味的作品とも違うようだし、見たことがある人にご教示頂きたいと出品しました。折り紙で同じような立体を作成するのはあるが、こちらはいくつかを組み合わせているので、これとは違う。

出品者 上村真澄さん

作家名	瑛九
作品名	「女と花」
材料・技法	エッチング
制作年	1952年
サイズ	12.3×8.7cm



コメント 「両手に花を抱える幸せ」
そんな表現があります。
今回ご案内させていただく「女と花」は瑛九の銅版画です。

Stay homeが耳なじんだ2020年は室内のイベントや人々が集うことを避けコロナ回避となり、新言語は「密」になりました。
そんなStay homeを彷彿とさせる瑛九らしい自由でチャーミングな作品です。
このようなお話を耳にしました。「こんな時代だから風景画を飾ろうよ」
その方のお声をヒントにおうちでギャラリートークをしましょう。私は今、お花の作品を愉しんでいます。

テーブルに笑顔の人物が二人。会話が弾んでいるようです。お誕生日のようでもあり、あたたかな日々の暮らしのようでもあり、瑛九ご夫妻のようでもありますね。

2001年版画芸術という雑誌の瑛九特集記事に都夫人のインタビューが掲載されています。
夫人はこう語りました。

「瑛九は大きな絵ばかり描いていましたが、小さな作品は、「これは僕が死んだら、Minjo(都夫人のエスぺラント名)が生活していくために描くんだよ。日本じゃ大きな絵は売れないから描いておくね」と言って残してくれたものなんです。」と。

私はサラリーマンコレクターが原点です。お小遣いで求められるほどの作品を大切に貯金をするような気持ちでこつこつと蒐集して参りました。版画は小さなサイズが主となっております。

もしか致しましたら…都夫人の糧となれたのかしら？
お二人の花は永久に我が家で咲き続けておりますよ。

「いとしきバラよ、汝の清らかなる歓喜、そのガクを薄紅色に染め、甘く香しい花蜜をその胸にたたえる」ロバート・ブラウニング

前頁

作家略歴 磯 九（えい・きゅう/1911～1960年）宮崎市生れ。日本美術学校中退。洋画家版画家、写真家。前衛的、抽象的な作品で知られる。フォトデッサンを制作。1937年自由美術家協会創立会員。51年デモクラート美術家協会を結成。創造美育協会に参加。東京で没、48歳。（出典 わ眼）洋画家、版画家、写真家

出品者 井澤尚子さん



作家名	宇野マサシ
作品名	「夜景」
材料・技法	水彩
制作年	不明
サイズ	F3号22.0×27.3cm

コメント

わの会の先達である阿部真也氏から譲っていただいた作品です。阿部氏の「那須思い出美術館」を訪れた際にこの情景に引き込まれました。郷愁と安らぎ、空気感までも伝わってくる。いつまでもこの作品の前で佇んでいたい。

作家略歴 宇野政之（うの・まさし/1948年～）豊田市生れ。1968年新宿美術研究所にて麻生三郎、山口長男に油絵を学ぶ。73年新宿紀伊国屋画廊、76年現代画廊、東京梅田画廊、84年松坂屋上野店、羽黒洞、アート紀元で個展開催。95年宇野マサシ画集出版。洋画家

編集後記： コロナウイルスの終息が叶わぬまいつもとは違った年末年始となりました。アートはときに勇気を、癒しを、希望をもたらしてくれます。アートの力が皆様に届くことを願って。

発行 : あーと・わの会
発行日 : 2020年12月吉日
編集 : 実行委員 あーと・わの会 放談会チーム
写真、編集、デザイン 井澤尚子
連絡先 : 事務局（堀 良慶） 〒277-0871 柏市若柴1-358
TEL 04-7134-8293 ryokeihori@yahoo.co.jp